

## 指導例 異年齢

# 体力づくり (マラソン・かけっこ)

対象年齢:3歳児、4歳児、5歳児



## ねらい:健やかな体

### ☆体を使って思い切り遊ぶ子ども

- ・目標に向かって意欲を持って取り組む。
- ・思い切り体を動かす楽しさを知る。
- ・規則正しい生活リズムを習慣づける。



## 子どもの姿

- ・毎日の生活の積み重ねで、意欲的に体を動かす。
- ・かけっこは、友達と競うことによって競争心が養われるとともに、ほとんどの子どもがタイムが大幅に伸びて、がんばったことが認められて自信を持つ。
- ・マラソンも、走れる距離が伸びてきている。



## 環境・援助で気をつけること

- ・一人一人の体調に特に留意して、無理のないように取組みを進める。
- ・かけっこは、どの子どもも意欲を持てるよう、友達との比較ではなく、自分の過去の記録と比較して、がんばりを認めるようにする。
- ・マラソンは競争ではない事を伝え、自分に合った距離を走るように配慮する。
- ・小学生の体力低下が課題となっていることを踏まえ、走ることを主体とし就学に向けて基礎体力をつけるよう取り組む。
- ・毎朝かけっこ、マラソンを行うため、特に朝食の重要性を保護者に伝え、家庭と連携して規則正しい生活リズムを習慣づける。

## 指導例 異年齢

# 異年齢グループ保育 生活

対象年齢:3歳児・4歳児・5歳児

## ねらい:つながる力・豊かな心・健やかな体

- ☆相手を思いやり、感謝の気持ちを持つ子ども
- ☆我慢したり、譲ったり自分の気持ちに折り合いをつける子ども
- ☆基本的な生活習慣を身に付けている子ども

## &lt;異年齢グループでの生活&gt;

- ・年少児や年中児は年長児にあこがれを持ち、身近でともに生活することで、学んだり見通しを持って生活しようとする。
- ・年長児は年下の子に教えたり助けたりすることで、思いやりや優しさが育つ。
- ・グループがひとつのファミリーのようになり、異年齢児の間に信頼関係を育て、より豊かな人間関係を築く。



5歳児が1歳児のお手伝い

## 経験する内容

## &lt;異年齢グループでの生活&gt;

**グループごとの朝の集い** 朝のあいさつ、名前送りや伝言ゲームなどで異年齢の交流を図る。



伝言ゲーム

**昼食とおやつの当番活動** 3・4・5歳児1人ずつがそれぞれのできることを担当したり、助け合って取り組む。お昼寝前の紙芝居選びも担当する。

**ふろしきで包もう** 3・4・5歳児はお昼寝用のパジャマや着替えの服を、ふろしきで包む。ふろしきで包む時の結び方を年長児が優しく教えたり見守る。



ふろしきの包み方「おしえてあげるね」

**お昼寝前後のお手伝い** 年長児は11月から1歳児のお昼寝トントンを、1月からお昼寝後の着替えの手伝いをする。

**午後の遊びとお迎え前の集い** 異年齢でのお話や絵本の時間を持つ。お迎え前の集いで異年齢でのその日の出来事の報告。戸外あそび。

## 子どもの姿

- ・生活の場をともにすることで、年齢による違いや一人一人のことをよく知ることができ、手助けするタイミングやその仕方、甘えてもよい状況などを理解できるようになる。
- ・朝夕の集い、お話、絵本などを一緒に楽しむことで、多様な感じ方や考え方を知ることができる。
- ・年上の子どもは教えたり助けたりすることで、感謝されることを経験し、自信につながる。
- ・年上の子どもから助けられたり優しくされた子どもは、周りの子どもや年下の子どもに優しくしようとする。

## 環境・援助で気をつけること

- ・保育者は、理解力や能力に大きな幅のある子どもの集団であることを意識して保育にあたる。
- ・手助けし過ぎてしまうことのないよう、自分でしたり自分で工夫するのを見守ってあげることの大切さを知らせる。

## 指導例 異年齢

# 異年齢グループ保育

## 活動・あそび

対象年齢:3歳児・4歳児・5歳児

**ねらい:つながる力・豊かな心・学ぶ力**

- ☆相手を思いやり、感謝の気持ちを持つ子ども
- ☆我慢したり、譲ったり自分の気持ちに折り合いをつける子ども
- ☆自分が好きと感じ、自分に自信を持つ子ども

- ・年齢の違う子どもたちが1つの活動や遊びをすることで、助け合ったり互いの良さを生かし合いながら楽しむ。
- ・活動や遊びを通して、より豊かな人間関係を築く。



水あそび「わあ!かわったね」

**経験する内容****<異年齢グループでの活動・あそび>**

- ・朝の体操、マラソン、季節の歌や手遊びと一緒に楽しむ。
- ・朝の遊びこみの時間に、どろんこあそび、しゃぼん玉や色水あそび、虫捕り、なわとびなど異年齢が一緒に遊ぶ。
- ・散歩、近くの公園や施設へ異年齢児が一緒に出かけ、交通ルールや公園などで遊び方を身に付ける。
- ・月1回の季節の行事やお楽しみ会に、異年齢グループで競い合ったりするゲームを楽しむ。
- ・レストランごっこ、お買い物ごっこなどは、異年齢のグループで計画し、飾り付けや作り物やお店やさんなど、年長児が中心になって取り組む。

園庭ぜんぶ  
どろんこあそび**子どもの姿**

- ・年上の子どもの活動を身近で見ることで、努力して工夫して1つのことができるようになることを知る。
- ・年下の子どもができないことを教えてもらい、がんばってできることを報告し、年上の子どもにほめてもらったり認めもらっている。
- ・一緒に手をつないで出かけ、園外のいろいろなことを知る。
- ・グループごとに競い合ったりするゲームを通して、助け合ったり応援し合ったりしながら、グループの1人という意識が芽生える。
- ・みんなで相談し計画したことを、年上の子どもがリードしながらみんなで一緒になって遊びを楽しむ。



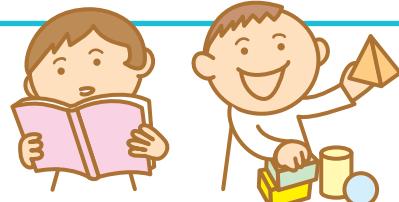
異年齢でのレストランごっこ

**環境・援助で気をつけること**

- ・一人一人が役割を持って、主体的に、楽しんで参加することができる環境をつくる。
- ・一人一人がしたいことや目標を持っていること、そのための援助や応援が周りから受けられる環境をつくる。

### 指導例 異年齢

## コーナー遊び



対象年齢:3歳児・4歳児・5歳児

#### ねらい:つながる力・豊かな心・学ぶ力

- ☆相手を思いやり、感謝の気持ちを持つ子ども
- ☆我慢したり、譲ったり自分の気持ちに折り合いをつける子ども
- ☆決められたルールを守り、自分達のルールをつくって遊ぶ子ども
- ☆大好きなことを見つけて楽しく関わる子ども
- ☆いろいろなことに興味や関心を持ち、やってみようとする子ども
- ・好きな遊びを見つけて、生き生きと意欲的に取り組む。
- ・自分の思いを表現し、友達と協力し合って活動する。
- ・異年齢交流を通して、思いやりや感謝の気持ちを持つ。



#### 経験する内容

- ・制作、ごっこ遊び、カプラ・積み木、ゲーム、絵本などのコーナーで、好きな遊びを楽しむ。
- ・保育者や友達と一緒に、のびのびと自分を表現して遊ぶ。
- ・異年齢交流が活発になり、小さい子どもに対して思いやりを持って遊ぶ。



構成コーナー

#### 子どもの姿

- ・製作コーナーでは遊びに必要なものを作ったり、好きな折り紙を年長児に教えてもらったりする。
- ・ごっこ遊びコーナー（レストランごっこ）では、年長児がお店やさんになり3歳児・4歳児がお客様になって、料理の注文やお金のやりとりごっこを楽しんでいる。
- ・カプラ・積み木コーナーでは、異年齢で協力し合い、時間をかけて動物園や街を作りあげる。
- ・ゲームコーナーでは、小グループで集まってカルタ・ウノ・パズルなどで年長児がルールを教えるながら、ルールを守って遊ぶ。
- ・絵本コーナーでは、一人になって安心して落ち着ける場として、ゆったりと本を見ている。



ゲームコーナー



特設コーナー「冬」

#### 環境・援助で気をつけること

- ・各コーナーの担当保育者が子どもと一緒に遊び、援助を行う。
- ・定期的にコーナー遊びの記録をとり、4期に分けて変更や見直しを行い、子どもの遊びを広げ意欲を高める。
- ・コーナーの担当保育者が子どもの動線を考え、各年齢の発達に応じた場作りと魅力あるコーナー作りを行う。

## 指導例 食育

## 米作り

対象年齢:3歳児、4歳児、5歳児(主として5歳児)



## ねらい:健やかな体・つながる力・豊かな心

- ☆意欲を持って楽しく食べる子ども
- ☆相手を思いやり、感謝の気持ちを持つ子ども
- ☆いろいろなことに感動する子ども

- ・用具の使い方を知り、挑戦しようとする意欲を持つ。
- ・お米のできるまでを知り、食への関心を持ち、食材や作る人への感謝の気持ちを持つ。
- ・収穫したもち米で餅つきを経験し、自分たちでついた餅を食べる喜びを味わう。
- ・高齢者をはじめ、地域の人々など自分の生活に関係深い人と触れ合う。



## 経験する内容

◎隣接する高齢者施設の田んぼで、高齢者と一緒に、6月は田植え、10月は稲刈りをし、したもち米で12月に収穫餅について食べる。

- |     |  |
|-----|--|
| 6月  | 5歳児は、高齢者と一緒に田植えをする。3歳児・4歳児は、その様子を見る。   |
| 10月 | 5歳児は、高齢者と一緒に稲刈りをする。3歳児・4歳児は、その様子を見る。   |
| 12月 | 4歳児・5歳児は、餅つき、食べる。3歳児は餅つきを見て、つきあがった餅を食べる。<br>・田植え、稲刈り、餅つきの体験を通して、心を動かされる経験をする。<br>・稲の生長に関心を持ち、期待や親しみをもって見たり、変化に気付いたりする。 |



## 子どもの姿

- ・お米ができるまでの話を聞き、給食を食べる時の意識が変わる。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんが、田植えをしている姿を見る。
- ・6月から、稲の生長を間近で見る。
- ・もち米を蒸し、それをつくとお餅になる事を知る。
- ・自分たちでついたお餅を、「おいしい」と喜んで食べる。

## 環境・援助で気をつけること

- ・鎌の扱いに気をつける。
- ・餅つきの際、衛生面に配慮する。